

談話

ヒバクシャ国際署名連絡会代表（田中熙巳）

核兵器禁止条約の採択を受けて

本日、核兵器禁止条約交渉国連会議は 124 か国が参加する交渉会議の最終日に当たり、核兵器禁止条約を 122 の賛同により採択しました。

昨年 4 月、原爆被爆者がもう待てないとして「被爆者は、すみやかな核兵器廃絶を願い、核兵器を禁止し廃絶する条約を結ぶことを、すべての国に求めます。」との訴えを発し、「ヒバクシャ国際署名」運動を開始しました。その時、核兵器禁止条約の交渉国連会議がこれほど早く開催されるとは全く想定していませんでした。

しかし、核兵器の非人道性に関する国際社会の強い懸念、核兵器の違法性に関する関心の高まりが、昨年 71 回国連総会の決議「多国間核軍備撤廃交渉の前進」となり、この決議をうけて「核兵器を禁止し、その全面廃絶に至る法的拘束力を持つ条約を交渉する」国連会議が、3 月 27～31 日、6 月 15 日～7 月 7 日の 2 期にわたり開催されました。会議に 120 か国以上の国が参加し、真摯でかつ精力的な議論を行い、今日の条約採択に至ったことに、感動と大きな喜びをもって歓迎します。

被爆者として呼びかけ人の一人として、採択された条約の前文に被爆者（ヒバクシャ）の今日までの苦しみに思いが寄せられ、核兵器の廃絶を求めて被爆者が果たした役割について「ヒバクシャ」という言葉を使って評価されたことに、運動を共にし、すでに他界した多くの被爆者を思いつつ心から嬉しく思います。

被爆者が求める核兵器のない世界実現に向けての確かな道筋が見えてきました。

しかし、残念ながら核兵器保有国と日本を含むその同盟国もオランダを除き、条約交渉会議に参加しませんでした。日本政府は、一日も早く核兵器禁止条約に賛同し批准して、唯一の戦争被爆国として核兵器廃絶へ向けて世界をリードして欲しいというのが被爆者の思いです。

核兵器のない平和な世界の実現までにはまだ多く難問がたちはだかっています。

ヒバクシャ国際署名連絡会は世界の多くの市民の賛同を求め、とりわけ核兵器保有国やその同盟国の市民の賛同を得ることに力をいれ、すべての国が条約に参加することができるよう一層の協力参加を呼びかけます。

